

ICTの可能性について（実習の進捗発表（ジュニア（
大学1～3年生），新規発表））

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-08-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山田, 憲次郎, 小杉, 知也, 山本, 雅規 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00028307

ICTの可能性について

山田憲次郎（静岡大学情報学部情報科学科）、
小杉知也（静岡大学情報学部情報科学科）、
山本雅規（静岡大学情報学部行動情報学科）

近年の日本ではインターネットの普及によって、コミュニケーションやショッピングなど様々な分野で恩恵を受けている。しかし、他の先進国に比べて今の日本にはその恩恵が教育分野に対して十分に行き届いてはいない。

私たちはつまり ICT を教育に普及させた場合どのような可能性があるのかを実際に導入されている事例や文献に基づき予測してみた。

例えば、個々に適した学習を促す「アダプティブラーニング」を実現するためにオンライン学習サービスのスタディサプリにおいて個々に推奨講義を通知するサービスを導入した結果、生徒のモチベーションと成績ともに好成果を出すことに成功した。

また VR を導入することによって本来なら危険な実験もリスクを減らして行うことができる。これは VR の迷路と実際の本物の迷路に入った際にどれほどの誤差が出るかを測定した表である。これを見ると実験における VR と現実の差が無いことがよく分かる。

これらの結果から ICT を導入したほうがより良い効率や成果が得られると考察した。そのため、本調査の結論として、ICT を教育の現場に本格的に導入していくことを提案する。

<関連実習科目>

PBL 演習